

ボランティアスピリットの継承のために 普及活動レポート



日本水難救済会では、海事思想や水難救済会ボランティア思想を啓蒙することにより、将来の後継者になってもらえるよう、海上保安官やライフセーバーの方々を講師に招き、青少年を対象とした水難救済ボランティア教室を全国で展開しています。平成22年度は88件10,206人の参加がありました。

大阪府水難救済会による、阪南市立石田保育園でのボランティア教室の様子

平成23年度 若者の水難救済ボランティア教室

「若者の水難救済ボランティア教室」は平成13年度から始まった事業で、小中学生や高校生等の若者に海の知識を深めてもらうとともに海に親しむ機会を提供し、実地体験を通して救命技術を習得してもらうことを目的としています。さらに、海での安全意識の向上を図るとともに水難救済ボランティア思想を啓蒙しています。今年度も国土交通省・海上保安庁・消防庁から後援を受け、各地で開催された模様を紹介します。

■大阪府水難救済会

取り組みへの評価から、開催を依頼されるケースが増加

平成23年6月9日から21日にかけて、4カ所の幼稚園や保育園で園児を対象に「若者の水難救済ボランティア教室」を開催しました。い

ずれも、当会が今までに行ったボランティア教室の取り組みを評価いただき、開催を依頼されたものです。

今回の教室では、海浜事故の防止を呼び掛けるとともに、ペットボトルなど身近なものを利用した救助方法の実演や、救命胴衣着用体験を行いました。また、家族の皆さまに救命胴衣着用の大切さを話していただくようお願いする「救命胴衣着用キャンペーン」も実施しています。

□阪南市立石田保育園

昨年実施した「若者の水難救済ボランティア教室」について、園長さま

より今年も依頼をいただき、夏の到来を意識する季節である6月10日、園児と保育士、保護者を対象に海浜事故を防ぐためのボランティア教室を行いました。

当日は園児と保育士にペットボトルを利用した救助や救命胴衣着用を体験していただきました。



救命胴衣の着用や救助活動。新鮮な体験に園児たちも興味津々

□こども海洋環境教室

大阪湾クリーン作戦イベントで堺海上保安署が主催する「こども海洋環境教室」の一環として「若者の水難救済ボランティア教室」を開催しました。

ペットボトルなど身近なものを使った救助法や、周囲にレスキューがない場合の救助法などを伝授す



子どもたちによる心配蘇生法の体験

るとともに、心肺蘇生訓練を行い、人形やAEDを使用して来場者の皆さまにも心肺蘇生法を体験していただきました。



約100名と多くの子どもの参加を得られた、盛況の会となりました。

■岡山県水難救済会

海水浴場に臨む小学校で、命を守る方法を伝授

平成23年7月14日、県内有数の海水浴場である沙美海水浴場が目の前に立地する倉敷市立沙美小学校において、「若者の水難救済ボランティア教室」を開催しました。

水島海上保安部より講師としてお招きした海上保安官が水辺で遊ぶ際の注意点について講習を行った後、着衣泳やライフジャケット着用、ランドセルやペットボトルなど身近にあるものを活用した「浮き」を生徒に体験していただきました。そして、海浜事故の未然防止を呼び掛けるとともに、海難防止思想の普及を図りました。



海の事故防止への関心は高く、当日は地元岡山のテレビ局の取材も



講師とパディーを組み、心肺蘇生法の手順を学ぶ参加者たち

■(社)琉球水難救済会
□沖縄県立糸満青少年の家

意識の高い参加者が、
救命方法を熱心に学ぶ

昨年に引き続き、国立沖縄青少年の家より「自然体験活動指導者」養成研修公募の受講者に対する「若者の水難救済ボランティア教室」の開催依頼をいただき、平成23年6月5日、県立糸満青少年の家にて実施しました。

この教室には、小学校の長期自然体験活動において教育効果の高い活動体験を提供するため、青少年の健康や安全などに関わる指導、そして青少年の体験活動の指導を補助する指導者の養成を目的としています。受講者として学生や教育関係者、県内レジャー施設の関係者、各企業から意識の高い参加者が集まっており、積極的に学ぶ姿勢が見られました。

受講生の目的に合わせ、教室の講習も「命を守る～救命救急～」と題し、心肺蘇生法やAEDの取扱い方法な

などを指導しました。その後、グループに分かれて訓練。他の参加者がパディーを組んでダミーの人形で訓練する様子に参加者同士が意見を交換する姿が見られたほか、さまざまなケースを想定しての対応方法などを講師に積極的に質問をしていました。「過去にも救命救急法を学んだが、改めて定期的に学習することの大切さを感じ

た]など、参加者からも好評が寄せられた会となりました。



グループに分かれ、意見交換をしながら心肺蘇生法をマスター

□沖縄県立水産高等学校

「講師が倒れる」
デモンストレーションで
学びを効果的に

台風2号が接近する5月27日、第十一管区海上保安本部救難課や沖縄ライフセービング協会の協力のもと、県立水産高校の海洋技術科1年生を対象に「若者の水難救済ボランティア教室」を開催しました。

始めに当会浅野常務理事が台風の見方などを講話し、次に、第十一管区海上保安本部職員による安全講話などが行われました。生徒たちは講師の話に真剣に耳を傾けており、メモを取ったり質問する姿も見られました。

その後、体育館2階の武道場に場所を移し、沖縄ライフセービング協会講師による心肺蘇生法訓練が行われました。最初にデモンストレーションで突然講師が倒れ、目前で心肺蘇生法が行われる様子には生徒達も驚いたようでしたが、集中して一連の心肺蘇生法の流れを見た経験がその後の講習にも役立ったようです。そしてグループごとに講師から心肺蘇生法とAEDの取扱い方法を学



突然講師が倒れ、心肺蘇生が行われたデモンストレーション。生徒たちも熱心に見守る

び、訓練を繰り返すことで、技術を身につけていました。

に実現したことが伺える感想文も寄せられました。

最後は被災者と救助者に分かれ、「想定外の事態の中で何が出来るか」をテーマに訓練。声をかけ合い救助しようとする生徒たちの姿が印象的でした。その後、本教室の目的を十分



(社)琉球水難救済会 浅野常務による講演



未来の「海の男」たちは、海難事故の際の救命方法についても関心が高い